

令和 7 年 10 月 10 日

東員町議会

議長 南部 豊 様

東員町議会 議員 三林 浩

研修報告書

研修期間	<u>令和 7 年 10 月 7 日（火）</u> <u>～令和 7 年 10 月 8 日（水）</u> （2 日間）
研修（視察）先	①岡山県 美咲町役場 ②兵庫県 加古川市役所
目的（テーマ等）	①地域づくりについて ②ごみ減量化に向けた取り組みについて
参加議員名 （複数の場合）	教育民生常任委員会
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

●10月7日（火） 岡山県 美咲町役場

研修概要

テーマ：地域づくりについて

参加者：美咲町 青野高陽 町長、光嶋寛昌 課長、宗近由利 副参事
東員町 教育民生常任委員会、平川大（議会事務局員）

内容

- ①歓迎のあいさつ・・・美咲町長
- ②訪問のあいさつ
- ③研修事項
- ④質疑応答
- ⑤研修終了後のあいさつ

所感

光嶋課長より美咲町の取り組み内容を聞いて心に残った言葉があります。

それは「行政マンは頭が固い」＝柔軟性に乏しい。もう少しわかりやすく言うと自分で限界を決めてしまう傾向があり新しい発想が生まれにくい。いわゆる民間企業や町民の意見等に追いつかない。例えば「子ども議会」の中学3年生の一般質問に対する回答が曖昧になる。

また、青野町長の言葉で「1人の1000歩よりも1000人の1歩」の意味は奥が深く、直ぐに出来ることではないと思いました。どこの市町村でも考えることは概ね同じであるけど、それに向かつての行動をどのように達成するためのアプローチで天と地の差があると思います。

その他、町長はいくつかの明言を残しています。

「何かを始めるためには何かを削る覚悟が必要」とか「賢く収縮するまちづくり」などがあります。本町にも「50年先を見据えて住んで良かった思えるまちづくり」がありますが、どちらも同じようなことを掲げていますが、美咲町の方がより具体的に実施する事項が見えやすく感じました。青野町長は2期目で公共施設（ハコモノ）を60施設解体及び売却した実績もあります。町民からの反発も尋常でなかったと聞きました。そのことに対しても町長の本気度を感じました。

本町にとって第一中学校建設に当たり大幅な費用が掛かっているため、財政が厳しくなることは目に見えています。公共施設を例に挙げても「公共施設等総合管理計画」や「公共施設カルテ」を活用して今後、廃止・解体・売却等を踏まえた施策を共に考えていきたい。

●10月8日（水） 兵庫県 加古川市役所

研修概要

テーマ：ごみ減量化に向けた取り組みについて

参加者：加古川市役所 市議会議員 中村 亮太

東員町 教育民生常任委員会、平川大（議会事務局員）

内容

- ①歓迎のあいさつ・・・市議会議員 中村亮太
- ②訪問のあいさつ
- ③研修事項
- ④質疑応答
- ⑤研修終了後のあいさつ

所管

加古川市の凄いところは、ごみの分別種の現状把握をしっかりとやっている所です。
この現状把握を怠ると思うような結果が出ません。

また、現場の実情を知るための行動をとっています。

このような時間を掛けて（苦労）「ごみの減量」に取り組んでいるからこそ真剣に向き合い目に見えた成果が生れ、さらに良くしようとするアイデアが生まれると思いました。

もう一つ感心したのは、住民や子どもたちの意見（アイデア）を募り、みんなを巻き込んでごみ減量に向けた施策が進められていることです。

では、本町はどうでしょうか？パブリックコメントは実施しますが、成果としては「今一」です。

また、そこからの脱却案はありません。

小・中学校ごとにアンケートを取るなど工夫することはないと思いますので、ごみ減量化に向けてどうしたいか具体的な目標を企画し、住民を巻き込むような施策を共に考えていきたい。

以上